BUFFALO

USB&eSATA ハードディスク

HD-QLSU2/R5 シリーズ

ユーザーズマニュアル

Q&A インターネットで弊社製品の Q&A 情報を入手できます。
http://buffalo.jp/support_s/

本書の使いかた

本書を正しくご活用いただくための表記上の約束ごとを説明します。

表記上の約束

注意マーク .... ⚠注意 に続く説明文は、製品の取り扱いにあたって特に注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与える恐れがあります。

次の動作マーク .... 次へ に続くページは、次にどこのページへ進めばよいかを記しています。

文中の用語表記

・Windows 搭載パソコンの場合、本書では、次のようなドライブ構成を想定して説明しています。
C: ハードディスク
D:CD-ROM ドライブ

・文中［ ］で囲んだ名称は、ダイアログボックスの名称や操作の際に選択するメニュー、ボタン、チェックボックスなどの名称を表しています。

・本書に記載されているハードディスク容量は、1GB ＝ 1000^3byte で計算しています。OS やアプリケーションでは、1GB ＝ 1024^3byte で計算されているため、表示される容量が異なります。

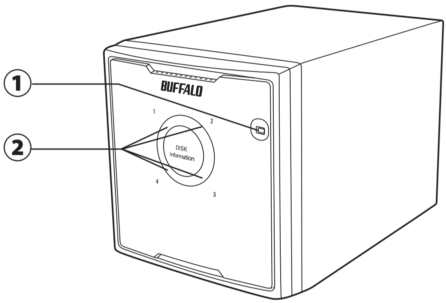
目次

1 はじめに

はじめに確認して頂きたいことを記載しています。

各部の名称

＜前面＞



①電源ランプ

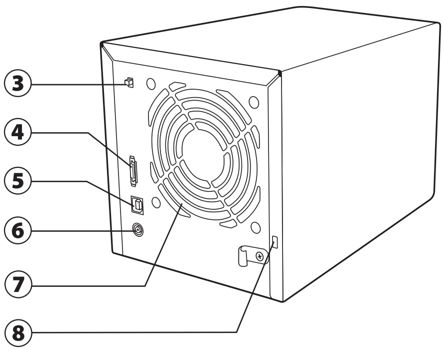
緑色点灯：電源 ON 時
橙色点灯：RAID メンテナンス中

②アクセスランプ

本製品に内蔵されたハードディスクの状態を表示します。ランプ横に記載されている番号が、ハードディスクのディスク番号を示しています。

緑色点灯：電源 ON 時
緑色点滅：アクセス時
赤色点滅：リビルド時
赤色点灯：異常時
※赤色点灯した場合は、「故障かなと思ったら（ブザー・ランプの確認）」（P30 ）を参照してください。

＜背面＞



③電源スイッチ（POWER MODE）

次ページを参照してください。

④ eSATA コネクター

eSATA 接続で取り付けるときに、eSATA ケーブルを接続します。

⑤ USB コネクター

USB 接続で取り付けるときに、USB ケーブルを接続します。

⑥電源コネクター

AC アダプターを接続します。

⑦ファン

ファンを塞ぐような設置はしないでください。

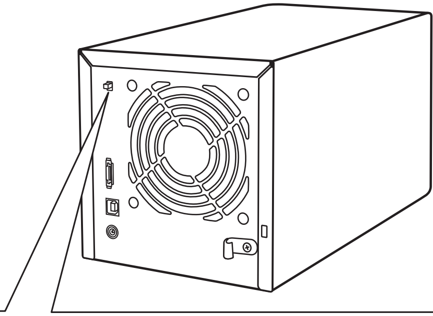
⑧セキュリティースロット

別売のセキュリティーアダプターワイヤケーブルで固定することができます。

※ 本製品前面のフロントパネルの内側には、緩衝材の厚紙が固定されています。お使いになる前に、必ず緩衝材の厚紙を取り外してください。取り外さずに使用した場合、本製品内部の空気の流れを妨げて高熱になり、故障する恐れがあります。

電源の ON/OFF

本製品の電源は、「PC 連動 AUTO 電源機能」によってパソコン本体の電源 ON/OFF に合わせて自動で ON/OFF します。パソコンの電源を OFF にしても本製品の電源が OFF にならない場合は、手動で OFF にしてください。



電源スイッチ(POWER MODE)

▲AUTO
▼OFF

電源のON/OFFを切り替えます。

AUTO： パソコンの電源に連動して自動的に本製品の電源のON / OFFが切り替わります。

OFF： 本製品の電源をOFFにします。
パソコンの電源には連動しません。

⚠注意 使用時の注意

- **パソコンの電源スイッチを OFF にしてから本製品の電源ランプが消えるまでに、少し時間がかかることがあります。**
- **AC アダプター付きの USB ハブに本製品を接続した場合、パソコンの電源スイッチを OFF にしても本製品の電源ランプが消えないことがあります。本製品の電源スイッチを OFF にするか、USB ハブから本製品を取り外してください。**

起動用ハードディスクとしてお使いになる場合（eSATA接続でWindowsをインストールする場合のみ）

eSATA 接続をした場合、Windows をインストールし、本製品を起動用ハードディスクとして使用することもできます。Windows をインストールする場合は、以下の手順で行ってください。

⚠注意
- **Mac OS をお使いの場合や USB 接続の場合は、Windows をインストールできません。**
- **RAID を設定する場合は、OS をインストールする前に「はじめにお読みください」の手順で本製品をセットアップした後、RAID 設定を行ってください。Windows のインストール後は、RAID 設定を行えません。**
- **2TB 以上の領域に OS をインストールすることはできません。超えているときは、「RAID を構築する」（P19）で互換モードとしてフォーマットし、1 つの領域が 2TB を超えないようにしてください。**

メモ Windows をインストールした後、ハードディスク内に未使用領域がある場合は、パーティションを作成し、フォーマットしてください。【画面で見るマニュアル「フォーマット / メンテナンスガイド」】

パソコンに付属の CD-ROM から Windows をインストールする場合

本製品をパソコンに接続して電源を ON にし、パソコンのマニュアルを参照して OS をインストールしてください。

⚠注意 お使いのパソコンによっては、仕様により Windows をインストールできないことがあります。パソコンメーカーにご確認ください。

Windows の CD-ROM からインストールする場合

本製品をパソコンに接続して電源を ON にし、Windows をインストールします。画面に表示されるメッセージに従って操作してください。インストール手順は Windows のマニュアルを参照してください。Windows を新規にインストールする場合の一般的な手順は、次のとおりです 。

本製品を eSATA ケーブルでパソコンに接続し、電源を ON にする

▼

Windows の起動ディスクからパソコンを起動する

▼

Windows をインストールする【各 OS のマニュアルを参照】

▼

パソコンを再起動する

1

はじめに

2 使いかた

使用時の注意や本製品の取り外しかたを説明します。

使用上の注意

⚠注意
- **本製品に仮想メモリーを割り当てないでください（本製品に OS をインストールした場合を除く）。本製品を取り外した際に、ハードディスク内のデータが破壊されるおそれがあります。**
- **本製品のアクセスランプが緑色点滅しているときは、絶対に eSATA ケーブルや USB ケーブル、電源ケーブルを抜いたり、パソコンの電源スイッチを OFF にしたりしないでください。データが破損するおそれがあります。**
- **USB で接続した場合は、パソコン本体の省電力モード（スタンバイ、休止状態、スリープなど）は無効にしてください。データが破損したり、省電力モードから復帰できないことがあります。**

● Macintosh をご使用の方は､本製品を使用する前に必ずフォーマット（初期化）してください。
【画面で見るマニュアル「フォーマット / メンテナンスガイド」】

● 本製品はホットプラグに対応しています（eSATA 接続の場合は､弊社製 eSATA インターフェースに接続した場合のみ）。
本製品やパソコンの電源スイッチが ON のときでも接続ケーブルを抜き差しできます。ただし、必ず定められた手順に従って取り外してください。【P8「本製品の取り外しかた」】

⚠注意 **本製品にアクセスしているとき（アクセスランプが緑色点滅しているとき）は、絶対に接続ケーブルを抜かないでください。本製品に記録されたデータが破損する恐れがあります。**

● 複数の USB 機器と併用したいときは、バッファローコクヨサプライ製 USB ハブ（別売）などを使用してください。

● パソコン本体と周辺機器のマニュアルも必ず参照してください。

● 本製品から OS を起動することができるのは、eSATA 接続した場合のみです。USB 接続した場合は、本製品から OS を起動できません。

● 動作中に本製品を移動させたり、設置方向を変えないでください。本製品の破損の原因となります。

● 本製品に物を立てかけないでください。
転倒して故障する恐れがあります。

● Windows パソコンで使用する場合
USB 接続する場合は､USB2.0 ポートに接続してください (USB1.1 接続は推奨しておりません)。USB1.1 準拠の USB ポートに接続すると､「 高速 USB デバイスが高速ではない USB ハブに接続されています。（以下略）」と表示されることがあります。

● FAT32 形式のハードディスクに保存できる 1 ファイルの最大容量は 4GB です。
本製品は FAT32 形式でフォーマットされているため、1 ファイルの最大容量が 4GB となります。NTFS 形式や MacOS 拡張フォーマット形式で本製品をフォーマット（初期化）すれば 1 ファイルが 4GB 以上のファイルでも保存できるようになります。

次のページへ続く

本製品の発熱について

本製品は筐体を利用して内部からの熱を放熱しております。筐体表面が熱くなりますが、異常ではありません。熱がこもると故障の原因となりますので、次の事項は行わないでください。

- **本製品を横置きにしたり、積み重ねて使用しないでください。**
- **本製品の上や周りに放熱を妨げるような物を置かないでください。**
- **本製品に布などをかぶせないでください。**

● **Macintosh でリカバリーするときは、本製品を取り外してください。**
取り外さないとリカバリーできないことがあります。

● **本製品の動作時 、特に起動時やアクセス時などに音がすることがありますが 、異常ではありません 。**

● **eSATA ケーブルで接続した場合（ポートマルチプライア非対応の場合）、本製品を複数の領域に分割していても、 1 つの領域しか認識されません。**
通常モード設定時は、ハードディスク 1 台しか認識されません。

● **Windows XP/Server 2003（Service Pack 適用前）をお使いの場合、2TB を超える容量の領域に対応していません。**2TB を超える容量の本製品をフォーマットするときは、RAID 管理ユーティリティーで「NTFS フォーマット - 互換モード」または「FAT32 フォーマット - 互換モード」を選択してください。2TB を超えないように領域を分割してフォーマットされます。【「RAID を構築する」（P19）参照】

● **Windows 7/Vista/Server 2008 R2/Server 2008/Server 2003 R2/Server 2003（Service Pack 適用前の Windows Server 2003 を除く）をお使いで、2TB を超える領域を 1 ドライブで使用したいときは、RAID 設定をしなおしてください。また、Windows XP や Service Pack を適用していない Windows Server 2003 をお使いで、2TB を超える容量が認識できない場合は、互換モードになっていない可能性があります。このようなときも RAID 設定をしなおしてください。**

●**ウイルス対策などでセキュリティーソフトウェアをインストールしている場合 (Windows ファイアウォール以外を使用している場合)、セキュリティーソフトウェアのマニュアルを参照して、RAID 管理ユーティリティー (C:¥Program Files¥BUFFALO¥RAID Utility¥RaidUtility.exe) をファイアウォールへ例外登録してください。設定に関する手順については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。**

本製品の取り外しかた

以下の手順で取り外してください。

メモ パソコンの電源スイッチが OFF の時は、そのまま取り外せます。

Windows

接続方法によって、手順が異なります。

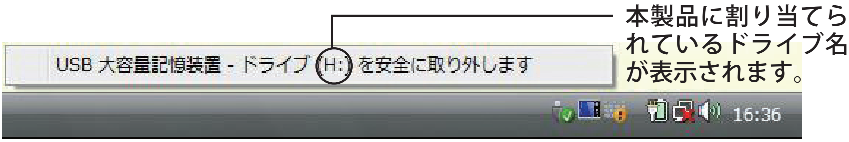
■ USB 接続の場合

注意 **必ず次の手順に従って取り外してください。次の操作を行わずに本製品を取り外すと、データが破損したり製品が故障する原因となります。以下の説明では、Windows Vista の画面を使用しています。**
NTFS 形式でフォーマットしたパーティションがある場合、以下の手順では取り外しできないことがあります。その場合は、パソコンの電源を OFF にしてから本製品を取り外してください。

1　タスクトレイのステータス表示領域に表示されているアイコン（　、または　）をクリックします。

2　メニューが表示されたら、[USB 大容量記憶装置（デバイス）- ドライブ（X:）を停止します] をクリックします。

下線部には、本製品に割り当てられたドライブ名が表示されます。
お使いの OS によって、メッセージが少し異なります。



注意 **TurboPC を有効にしているときは、メニューに「TurboPC」と表示されます (Windows 7 を除く)。**

3　安全に取り外すことができる旨のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックし、本製品を取り外します。

※ メッセージが表示されるまで、しばらく時間がかかる場合があります。
※ RAID 管理ユーティリティーが起動している場合、エラーが表示され取り外しできないことがあります。その場合は、RAID 管理ユーティリティーを終了してから、上記の手順を行ってください。
※ Windows 7/XP の場合は、[OK] をクリックする必要はありません（表示は自動的に消えます）。

以上で完了です。

■ eSATA 接続の場合

本製品を起動用ハードディスクとしてお使いの場合（Windows をインストールした場合）は、本製品を取り外さないでください。

本製品に OS をインストールした場合､本製品を取り外すとパソコンが起動しません。また、再度接続したときもパソコンが起動しない恐れがあります。

弊社製 eSATA インターフェースのマニュアルを参照してください。

⚠注意 **パソコンの eSATA ポートに接続している場合、パソコンの電源を OFF にしてから本製品を取り外してください。パソコンの電源が ON のときは､本製品を取り外しできません。**

Macintosh

Macintosh の場合は、以下の手順で本製品を取り外してください。

1 **本製品のアクセスランプが点灯していることを確認し、デスクトップにあるハードディスク（本製品）のアイコンをゴミ箱にドラッグアンドドロップします。**

⚠注意 本製品のすべてのアイコンを、ゴミ箱にドラッグアンドドロップしてください。

2 **本製品を取り外します。**

以上で完了です。

3 フォーマット

本製品をフォーマット（初期化）する方法を説明しています。

ご注意

本製品は出荷時に FAT32 形式でフォーマットされています。
通常はそのままの状態でご使用いただけます。

本製品を複数の領域に分けてご使用になる場合は、必ずフォーマットしてください。
フォーマット手順は、付属 CD に収録されている「フォーマット / メンテナンスガイド（PDF ファイル）」をご参照ください。

TeraStation に本製品を接続してお使いの場合、本製品のフォーマット手順は、TeraStation に付属のマニュアルをご参照ください。

- **フォーマット中は、絶対にパソコンや TeraStation の電源を OFF にしたり、リセットしないでください。**

  ディスクが破損するなどの問題が発生します。また、以後の動作についても保証できません。ご注意ください。

- **フォーマットすると、ハードディスク内にあるデータは失われます。フォーマットする前に、ハードディスクの使用環境をもう一度よく確認してください。**

  ハードディスクのフォーマットは、お客様ご自身の責任で行うものです。
  誤って大切なデータやプログラムを削除しないように、フォーマットを実行するディスクが何台目のディスクか、パーティション名は何か必ず確認しておいてください。

4 メンテナンス

本製品のメンテナンス方法や内蔵ハードディスクの交換方法を説明します。

バックアップ

バックアップの必要性

ハードディスクに蓄えられた重要なデータを保護するために、外部のメディアにデータの複製を作成することを「バックアップ」といいます。大容量ハードディスクには、日々大量のデータが格納されます。事故や人為的なミスなど不測の事態でデータを失うことは、業務上大きな損失となります。
バックアップを行えば、同じデータが複数のメディア（ハードディスクなど）に保存されます。そのため、万が一、1 つのメディアに保存したデータが破損・消失した場合でも、他のメディアから破損・消失したデータを復元することができます。

⚠注意 ハードディスクを使用する場合は、定期的にバックアップを作成してください。

バックアップ用のメディア

バックアップ用のメディアには次のようなものがあります。

- BD-R/RE
- DVD ± R/RW
- DVD-RAM
- CD-R/RW
- 光磁気ディスク（MO）
- 増設ハードディスク
- ネットワーク（LAN）サーバー

可能な限り DVD-R など容量の大きいメディアにバックアップすることをおすすめします。

増設ハードディスクにバックアップする場合は、そのハードディスクをバックアップ専用にすることをおすすめします。

バックアップデータの復元（リストア）

バックアップデータを元のハードディスクに復元することをリストアといいます。

リストアコマンド／ツールは、一般的にバックアップコマンド／ツールで指定されたもの以外は使用できません。マニュアルなどで確認して使用してください。

エラーチェック（スキャンディスク）

Windows には､ハードディスクのエラー（異常）をチェックするためのツールが付属しています。このツールはエラーを修復することもできます。ハードディスクを安全に使用するために、ハードディスクを定期的にチェックすることをおすすめします。

メモ
- **エラーのチェック方法は、Windows のヘルプやマニュアルを参照してください。**
- **Macintosh には、ハードディスクのエラーをチェックするためのツールは付属していません。ディスクのチェックには、市販のユーティリティーを使用してください。**

最適化（デフラグ）

ハードディスクを長期間使用してファイルの書き込みや削除を繰り返していると、ファイルが分断されてディスクのあちらこちらに散らばってしまいます。これを断片化（フラグメンテーション）といいます。断片化されたファイルの読み書きは、ディスクのあちらこちらにアクセスしなくてはいけないため、時間がかかってしまいます。

このように散らばってしまったファイルをきれいに並べなおすことを､最適化（デフラグメンテーション）といいます。ハードディスクを最適化すると､ディスクアクセスの速度が改善されます。

Windows には、断片化したハードディスクを最適化するためのツールが付属しています。ハードディスクを快適に使用するために、定期的にハードディスクを最適化することをおすすめします。

メモ
- **最適化の方法は、Windows のヘルプやマニュアルを参照してください。**
- **Macintosh には、ハードディスクを最適化するためのツールは付属していません。ディスクの最適化には、市販のユーティリティーを使用してください。**

特定のソフトウェアが使用できない場合

パソコン標準搭載のハードディスクを対象にしたソフトウェア（※）上で、本製品を使用できないことがあります。
その場合は、パソコンに標準搭載のハードディスクを使用するか、他のソフトウェアを使用してください。

※ ソフトウェアの仕様はソフトウェアメーカー（プリインストールソフトウェアではパソコンメーカーの場合があります）にご確認ください。

RAID の構築 (USB 接続のみ)

本製品に内蔵されている 4 台のハードディスクで RAID を構築し、1 台のハードディスクと使用できます。また、RAID を解除したり、再構築する場合も以下の手順で行えます。

RAID を構築するときの注意

- **RAID を構築する時は、本製品一台のみを USB ケーブルで接続し、他の USB 機器は全て取り外してください。本製品を eSATA で接続したり、他の USB 機器が接続されていたりすると、正常に RAID を構築できないことがあります。**
- **RAID を構築すると、本製品に保存されていたデータが全て消去されます。RAID の構築を行う前にバックアップを作成してください。**

RAID とは

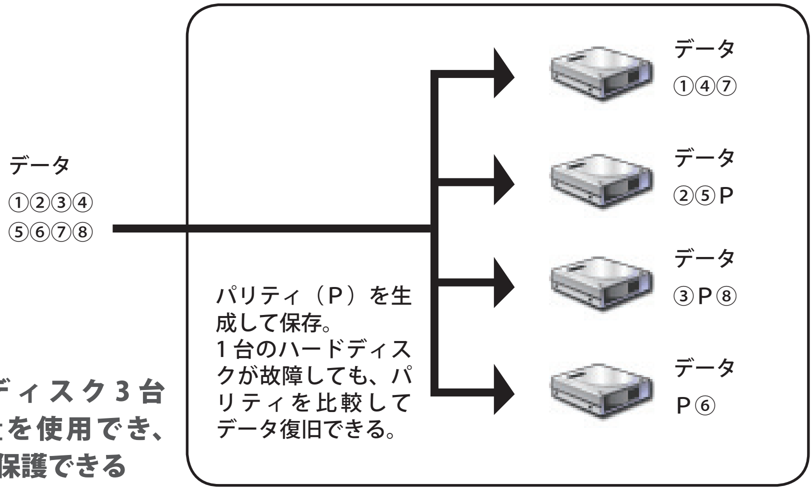
RAID(レイド) とは、複数のハードディスクを組み合わせて 1 台のハードディスクに見立て、ハードディスクを高速化したり、故障時の復旧を容易にしたりするシステムです。本製品では、4 台のハードディスクで RAID を構築します。ハードディスクの組み合わせかたにより、RAID レベルが決められています。本製品が対応している RAID レベルは、次のとおりです。

■ RAID5 モード（出荷時設定 / 高速アクセスでき、データを安全に保存できる）

データからパリティ（誤り訂正符号）を生成し、データとともに複数のハードディスクに分散して記録します。どれか 1 つハードディスクが破損しても、ハードディスク交換により周りのデータとのパリティを比較し、データ復旧が可能です。OS 上からは、3 台分のハードディスクの容量しか認識されません。データを分散して保存するため、ハードディスクへのアクセス速度は、1 台だけ使っている場合よりも高速です。

●ハードディスクの構成例

HD-QL4TSU2/R5 の場合：3TB（1TB×3）のハードディスクとして認識します



ハードディスク 3 台分の容量を使用でき、データも保護できる

4

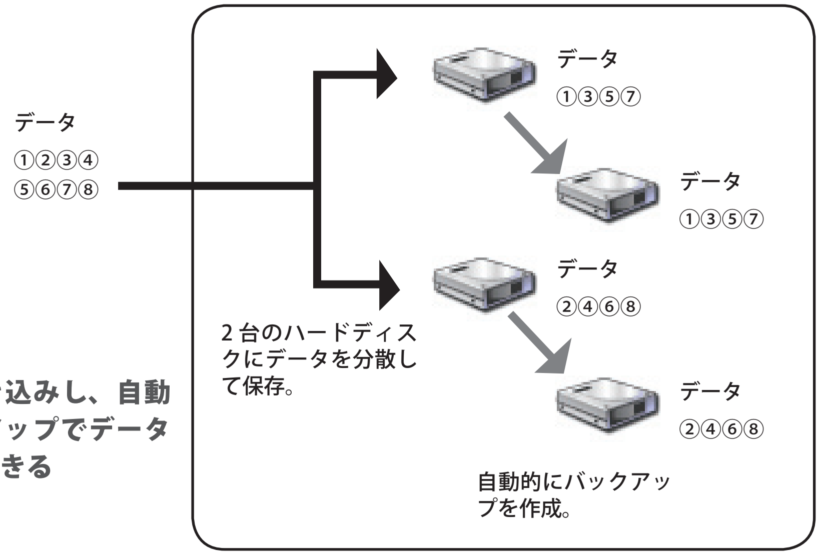
メンテナンス

■ RAID10 モード（高速アクセスでき、データを安全に保存できる）

4 台のハードディスクを 1 台として使用します。使用できる容量は、2 台分のハードディスクの容量となります。分散して書き込みを行うのでアクセス速度が少し速くなります。
同じデータを 2 個のハードディスクに同時に書き込んでいるので、ペア (1-2 または 3-4) を構成する一方のハードディスクが破損してもハードディスクを交換すればデータを復旧できます (1-2、または 3-4 両方破損した場合はデータを復旧することはできません)。

●ハードディスクの構成例

HD-QL4TSU2/R5 の場合：2TB（1TB×2）のハードディスクとして認識します



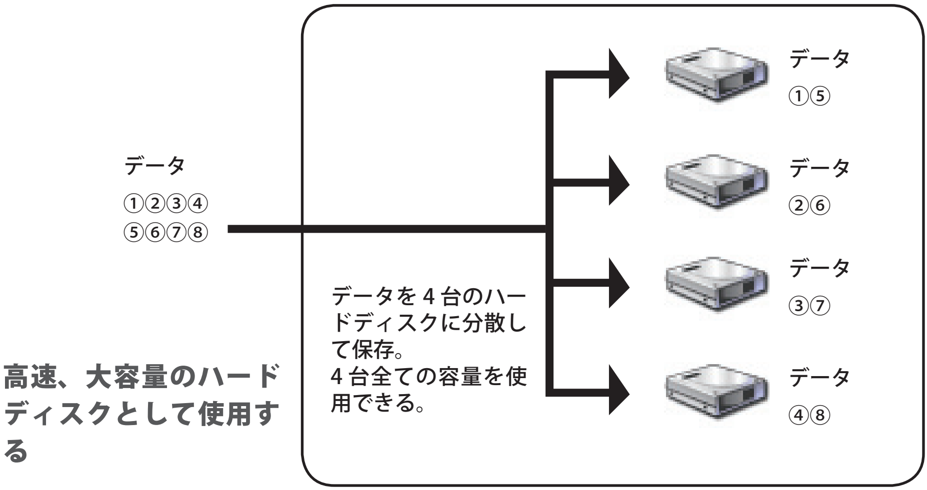
高速書き込みし、自動バックアップでデータも保護できる

■ RAID0 モード（高速な大容量ハードディスクとして使用できる）

4 台のハードディスクを 1 台の大容量ハードディスクとして使う方法です。データを分散して 4 台のハードディスクに同時記録するため､アクセス速度が向上します｡OS からは 4 台のハードディスクの容量を足した 1 台の大容量ハードディスクとして認識されます。RAID0 モードでは、データを保護するしくみがありません。そのため、ハードディスクが 1 台でも故障したら、すべてのデータが読み出せなくなります。

●ハードディスクの構成例

HD-QL4TSU2/R5 の場合：4TB(1TB×4）のハードディスクとして認識します

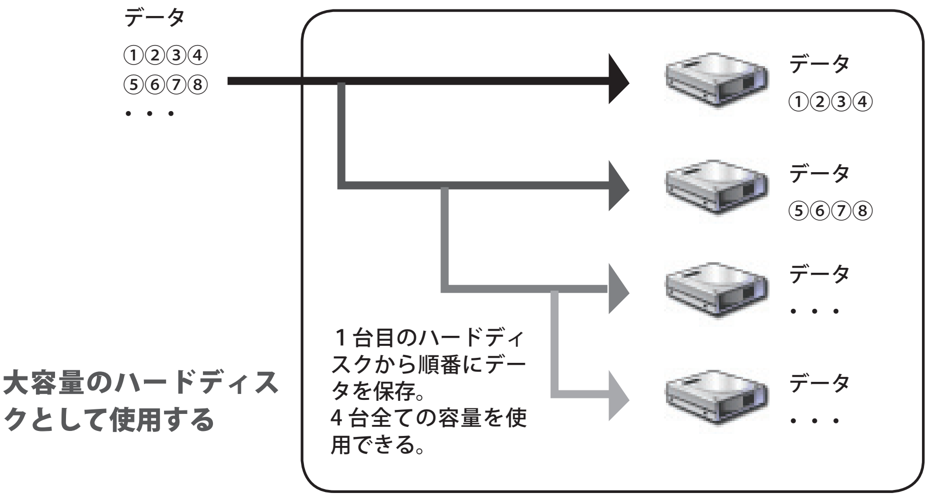


■スパニングモード（大容量ハードディスクとして使用できる）

4 台のハードディスクを 1 台の大容量ハードディスクとして使う方法です。OS からは 4 台のハードディスクの容量を足した 1 台の大容量ハードディスクとして認識されます。データを分散せずに保存するため、アクセス速度は通常と変わりません。スパニングモードでは、データを保護するしくみがありません。そのため、ハードディスクが 1 台でも故障したら、すべてのデータが読み出せなくなります。

●ハードディスクの構成例

HD-QL4TSU2/R5 の場合：1TB(1TB×4）のハードディスクとして認識します

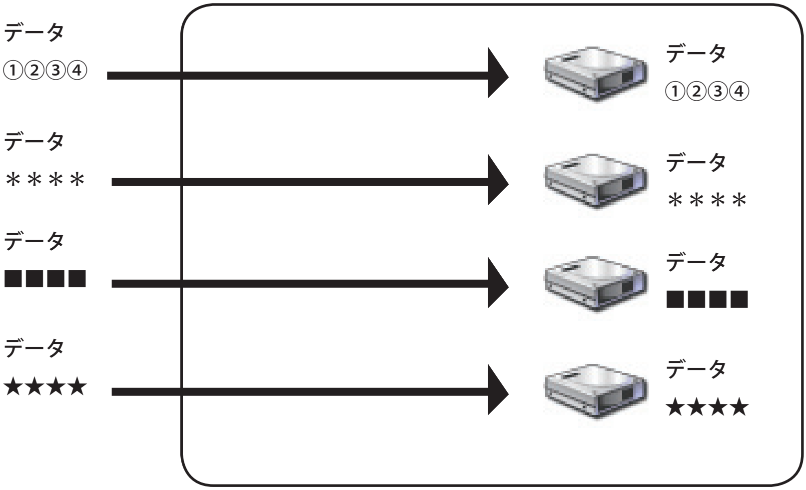


■通常モード（４台のハードディスクとして使用できる）

RAID を構築しないで使用します。本製品は 4 台のハードディスクとして認識され、それぞれに違うデータを保存できます。

●ハードディスクの構成例

HD-QL4TSU2/R5 の場合：1TB のハードディスクを 4 台認識します



４台のハードディスクに個別にアクセスできる

⚠注意 eSATA ケーブルで接続した場合、通常モード設定時は、ハードディスク 1 台しか認識されません（本製品を接続した eSATA ポートがポートマルチプライアに対応していれば 4 台表示できます）。

RAID 管理ユーティリティーのインストール

RAID を構築するときは、RAID 管理ユーティリティーを使用します。RAID 管理ユーティリティーをインストールしていない場合は、以下の手順でインストールしてください。

メモ **すでに RAID 管理ユーティリティーをインストールしている場合は、以下の手順は必要ありません。**

■ Windows

1 ユーティリティー CD をパソコンにセットします。

DriveNavigator が起動します。起動しないときは、ユーティリティー CD 内の [コンピュータ (マイ コンピュータ)] 内の CD-ROM ドライブアイコンをダブルクリックしてください。

2 [かんたんスタート] → [ソフトウェアの個別インストール] の順にクリックします。

3 [RAID 管理ユーティリティー] を選択し、[インストール開始] をクリックします。

以降は、画面の指示に従ってインストールしてください。

■ Mac OS X 以降

1 ユーティリティー CD の [Mac] フォルダーにある「RaidUtility.dmg」をダブルクリックします。

2 デスクトップに解凍された RaidUtility ディスクをダブルクリックします。

3 RaidUtility ディスク内の 

（RaidUtility）をデスクトップにコピーします。

以上で完了です。

RAID 管理ユーティリティーを起動するときは、デスクトップの 

（RaidUtility）をダブルクリックします。

⚠注意 **デスクトップにコピーした** 

（RaidUtility）は、削除しないでください。削除すると、RAID 管理ユーティリティーを起動できなくなります。削除してしまった場合は、再度ユーティリティー CD からコピーしてください。

RAID を構築する

RAID は、以下の手順で構築してください。

⚠注意 「RAID を構築するときの注意」(P13) を必ずお守りください。

メモ ここでは、Windows 7 の画面を例に説明しています。お使いの OS によって画面が異なります。

1 RAID 管理ユーティリティーを起動します。

- Windows の場合は、[スタート] ー [(すべての) プログラム] ー [BUFFALO] ー [RAID Utility] ー [RAID 管理ユーティリティー] を選択します。

  ※ Windows 7/Vista をお使いの場合、「次のプログラムにこのコンピュータへの変更を許可しますか ?」や、「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示されたら、[はい] または [続行] をクリックします。

- Macintosh の場合は、デスクトップにコピーした 

(RaidUtility) をダブルクリックします。

2 [設定] をクリックし、[ディスク構成の変更] を選択します。



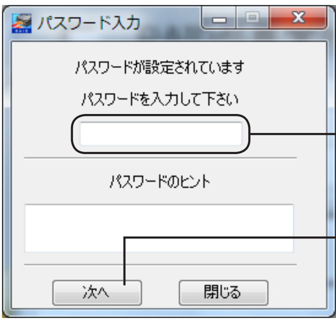
① [設定] をクリックします。

② [ディスク構成の変更] を選択します。

以下の画面が表示されたときは？

パスワードを設定している場合は、以下の画面が表示されます。パスワードを入力して[次へ] をクリックしてください。

⚠注意 パスワードを忘れた場合、RAID を構築することはできません。弊社サポートセンターへご連絡ください。

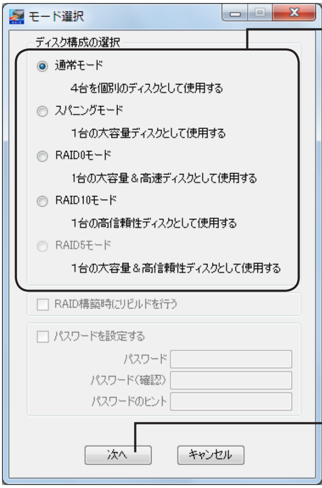


①パスワードを入力します (半角英数字 8 文字以内)。

② [次へ] をクリックします。

次のページへ続く

3 構築する RAID を選択し、[次へ] をクリックします。



①構築する RAID を選択します。

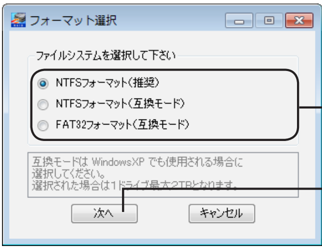
② [次へ] をクリックします。

※ **パスワード設定について**
RAID5、RAID10、RAID0、スパニングを選択された場合、ディスク構成の変更時のパスワードを設定できます（半角英数字 8 文字以内）。パスワードを設定するときは、「パスワードを設定する」にチェックを付け、設定するパスワードを入力してください。なお、パスワードを忘れると RAID を構築できなくなりますので、お客様の責任で厳重に管理してください。

※ **RAID 構築時にリビルドする場合（RAID5、RAID10 のみ）**
RAID5、RAID10 を再構築される場合、構築時にリビルドできます。リビルドを行う場合は、「RAID 構築時にリビルドを行う」をチェックしてください。
リビルド時間は、RAID5 モードの場合で 100GB あたり約 19 分（HD-QL4TSU2/R5 の場合、約 190 分）RAID10 モードの場合で 100GB あたり約 19 分（HD-QL4TSU2/R5 の場合、約 380 分）かかります。

※ Windows Server 2003 R2/Server 2003 の場合、以降の手順が異なります。画面に従って構築してください。構築が完了したらフォーマットしてください。

4 フォーマットする形式を選択します（Windows のみ）。



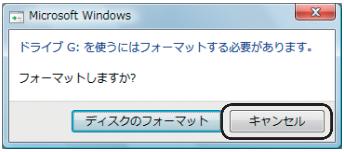
①フォーマットする形式を選択します。

② [次へ] をクリックします。

⚠注意
- **Macintosh をお使いの場合、上の画面は表示されません。次の手順へ進んでください。**
- **NTFS フォーマット（推奨）を選択することをお勧めします。FAT32 フォーマットを選択した場合、4GB 以上のファイルを保存できません。**
- **Windows XP/Server 2003（Service Pack 適用前）をお使いの場合、2TB を超える容量の領域に対応していません。**
  2TB を超える容量の本製品をフォーマットするときは、「NTFS フォーマット - 互換モード」または「FAT32 フォーマット - 互換モード」を選択してください。2TB を超えないように領域を分割してフォーマットされます。
- **2TB を超える容量の領域をフォーマットするとき、「NTFS フォーマット (推奨)」を選択すると 2TB 以上でも 1 つの領域として確保できます。この場合、Windows XP/Server 2003（Service pack 適用前）では使用できません。**

Windows をお使いの方へ

RAID 管理ユーティリティーでディスク構成 (NTFS フォーマットを選択) の変更を行うと、次の画面が表示されることがあります。



このようなときは、ディスク構成の変更が完了してから（「設定の変更が正常に終了しました」と表示されます）、必ず [キャンセル] をクリックしてください。
ディスク構成の変更は正常に完了しています。そのままご使用ください。

※上記の画面で [ディスクのフォーマット] をクリックしてしまったときは、次のように操作してください。

- 「この操作を実行するための権利がありません」と表示された場合：
  [OK] をクリックしてください。
- 「フォーマットできません」と表示された場合：
  [閉じる] をクリックしてください。
- Windows 標準のフォーマット画面が表示された場合：
  [閉じる] をクリックしてください。[開始] をクリックするとディスク構成の変更が正常に完了しないことがあります。このようなときは、再度 RAID 管理ユーティリティーでディスク構成を設定し直してください。

5 「RAID モードを変更すると、ハードディスク内のデータが消去されますがよろしいですか？」と表示されたら、[Yes] をクリックします。

6 「変更先ドライブの内容を再度確認してください。続行してよろしいですか？」と表示されたら、[はい] をクリックします。

RAID の構成が始まります。

7 「RAID 構築が完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。

以上で RAID の構築は完了です。

⚠注意 **Macintosh をお使いの方へ**

- RAID を構築した後に本製品を MacOS 拡張形式で初期化する必要があります。画面で見るマニュアル「フォーマット / メンテナンスガイド」を参照して、本製品を初期化してください。
- RAID 構築後に本製品をパソコンに接続すると、アクセスランプが緑色に点灯して正常に認識されないことがあります。その場合は、本製品の電源を OFF した後、再度電源を ON にしてください。

RAID を再構築 / 解除するときは

「RAID を構築する」と同じ手順で設定できます。再構築するときは、新しい RAID 設定を設定してください。RAID を解除するときは、「通常モード」を選択してください。

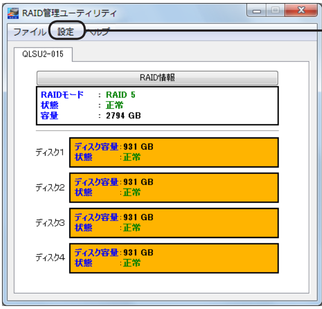
メール通知機能 (Windows のみ)

RAID 管理ユーティリティーで、指定されたイベント発生時に設定されたメールアドレスに通知メールを送信することができます。メール通知機能は次のように設定します。

メモ ここでは、Windows 7 の画面を例に説明しています。お使いの OS によって画面が異なります。

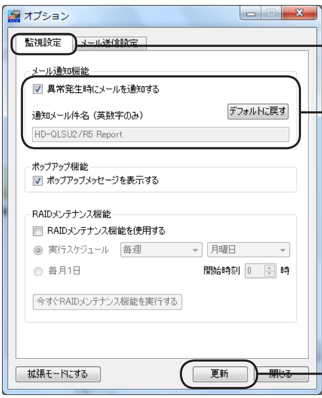
1 **[スタート] − [(すべての) プログラム] − [BUFFALO] − [RAID Utility] − [RAID 管理ユーティリティー] を選択します。**

2 **[設定] をクリックし、[オプション設定] を選択します。**



[設定] をクリックし、[オプション設定] を選択します。

3



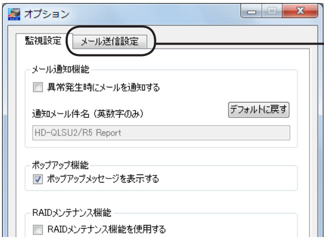
① [監視設定] タブをクリックします。

② [異常発生時にメールを通知する] をクリックし、チェックマークを表示させます。
メールの件名を入力することもできます。[デフォルトに戻す] をクリックすると、件名を [HD-QLSU2/R5 Report] とします。

③ [更新] をクリックします。

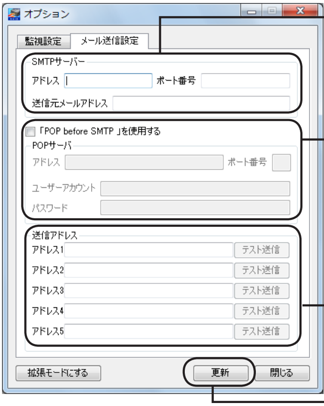
次のページへ続く

4



［メール送信設定］タブをクリックします。

5　使用しているメールサーバーのアドレス、アカウント、パスワードを入力し、送信元・送信先のメールアドレスを指定します。



① 使用する SMTP サーバーのアドレス、ポート番号、送信元メールアドレスを入力します。

POP before SMTP を使用する場合は、[「POP before SMTP」を使用する] を選択し、POP サーバのアドレス、ポート番号、ユーザーアカウント、パスワードを入力します。

② 送信先メールアドレスを入力します (最大 5 つまで)。

③ [更新] をクリックします。

出荷時状態（基本モード）では、以下の条件のときにメールを送信します。

1. RAID メンテナンスエラーが発生した時。
2. HDD エラーが発生した時。

以上でメール通知機能の設定は完了です。

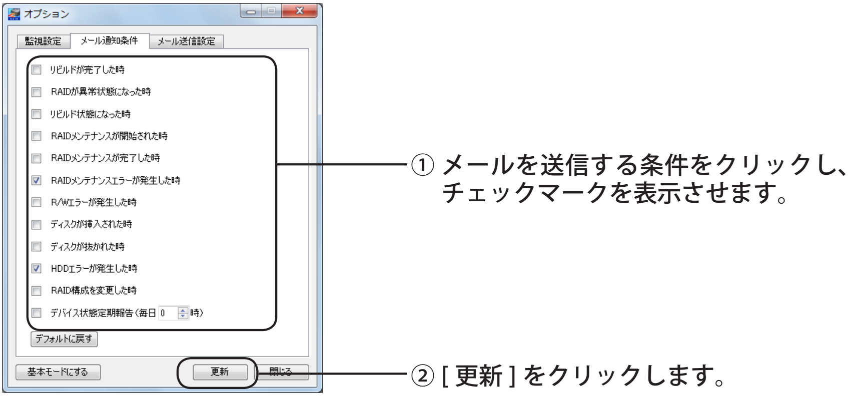
メモ メールを送信する条件は、以下の手順で指定できます。

1 **[拡張モードにする] をクリックします。**

2 **「拡張モードへ変更します。」と表示されたら、[Yes] をクリックします。**

3 **[メール通知条件] タブをクリックします。**

2 **どのようなときにメールを送信するか条件を指定します。**

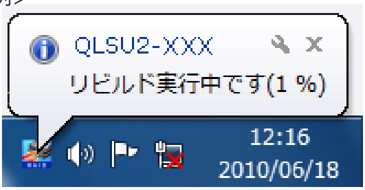


以上でメール送信の条件の指定は完了です。

メッセージ表示機能 (Windows のみ)

RAID 管理ユーティリティーで、指定されたイベント発生時にタスクバーの  アイコンからメッセージを表示することができます。

<表示例>

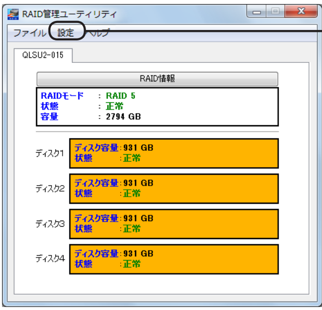


メッセージ表示機能は次のように設定します。

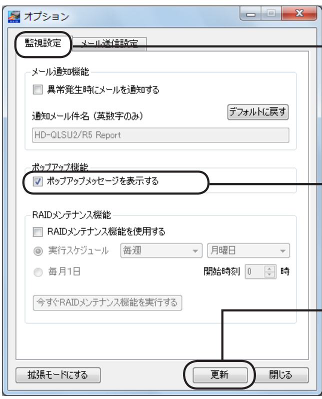
メモ ここでは、Windows 7 の画面を例に説明しています。お使いの OS によって画面が異なります。

1 **［スタート］－［(すべての) プログラム］－［BUFFALO］－［RAID Utility］－［RAID 管理ユーティリティー］を選択します。**

2 **［設定］をクリックし、[オプション設定] を選択します。**



3



次のページへ続く

下記の条件のときに、メッセージを表示します。

1. ディスクが挿入され、正常状態になりました。
2. リビルドが完了し、正常状態になりました。
3. ディスクが挿入されましたが、RAID は異常状態です。
4. ディスクが抜かれ、RAID は異常状態です。
5. RAID は、リビルド中から異常状態になりました。
6. ディスクが挿入され、リビルドが開始されました。
7. リビルド中にディスクが抜かれました。
8. リビルド実行中です。
9. RAID メンテナンスが実行されました。
10. RAID メンテナンスが完了しました。
11. RAID メンテナンス中です。
12. RAID メンテナンス中にディスク間の相違が発生しました。
13. RAID メンテナンス中にセクターを修正しました。
14. R/W エラーが発生しました。
15. ディスクが挿入されました。
16. ディスクが抜かれました。
17. HDD エラーが発生しました。
18. RAID が構築されました。
19. RAID が削除され、通常モードになりました。
20. リビルド中、ソースドライブにエラーが発生しました。
21. リビルド中、ターゲットドライブにエラーが発生しました。
22. リビルド中にソースドライブにタイムアウトエラーが発生しました。
23. リビルド中にターゲットドライブにタイムアウトエラーが発生しました。

以上でメッセージ表示機能の設定は完了です。

ログ記録機能 (Windows のみ)

RAID 管理ユーティリティーがインストールされたフォルダー (初期設定では、C:¥Program Files¥BUFFALO¥RAID Utility¥xLSU2-xxx) には､自動的に「event_log_(*1).txt」ファイルが作成されます。ます。なお、ファイルは月ごとに分割されます。
*1: 年と月の数字が入ります。例：2010 年 7 月の場合は、「201007」と入ります。

ログファイルには、次のような情報が記載されます。

[2010/xx/xx xx:xx:xx] [情報レベル] [ログの記録内容]

ログの記録日時

INFO= お知らせ情報
WARN= 警告情報
ERR= エラー情報

※ログファイルの保存期間は、6 ヶ月です。

下記の条件のときに、ログが記録されます。

1. ディスクが挿入され、正常状態になりました。
2. リビルドが完了し、正常状態になりました。
3. ディスクが挿入されましたが、RAID は異常状態です。
4. ディスクが抜かれ、RAID は異常状態です。
5. RAID は、リビルド中から異常状態になりました。
6. ディスクが挿入され、リビルドが開始されました。
7. リビルド中にディスクが抜かれました。
8. RAID メンテナンスが実行されました。
9. RAID メンテナンスが完了しました。
10. RAID メンテナンス中にセクターを修正しました。
11. R/W エラーが発生しました。
12. ディスクが挿入されました。
13. ディスクが抜かれました。
14. HDD エラーが発生しました。
15. RAID が構築されました。
16. RAID が削除され、通常モードになりました。
17. リビルド中、ソースドライブにエラーが発生しました。
18. リビルド中、ターゲットドライブにエラーが発生しました。
19. リビルド中にソースドライブにタイムアウトエラーが発生しました。
20. リビルド中にターゲットドライブにタイムアウトエラーが発生しました。

以上でログ記録機能の設定は完了です。

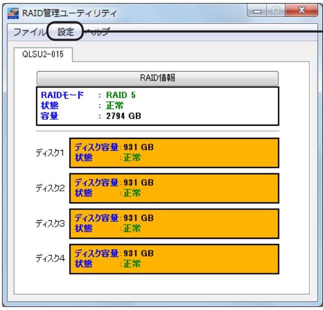
RAID メンテナンス機能 (Windows のみ)

RAID 管理ユーティリティーで、RAID メンテナンス機能 (不良セクターによるエラーがないか定期的にチェックし、エラーがあった際は自動的にリビルドする機能) を設定することができます。RAID メンテナンス機能は次のように設定します。

メモ ここでは、Windows 7 の画面を例に説明しています。お使いの OS によって画面が異なります。

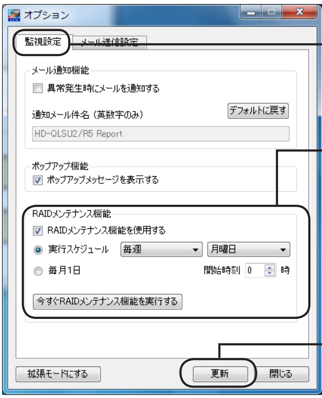
1 **［スタート］－［(すべての) プログラム］－［BUFFALO］－［RAID Utility］－［RAID 管理ユーティリティー］を選択します。**

2 **［設定］をクリックし、[オプション設定] を選択します。**



[設定] をクリックし、[オプション設定] を選択します。

3



① ［監視設定］タブをクリックします。

② ［RAID メンテナンス機能を使用する］にチェックし、実行する周期を指定します。[今すぐ RAID メンテナンス機能を実行する] をクリックすると、すぐに RAID メンテナンス機能を実行できます。

③ [更新] をクリックします。

メモ アクセスランプは、ディスクアクセスに対応して緑色点滅します。RAID メンテナンス機能実行中は、電源ランプが橙色に点灯します。RAID メンテナンス機能実行中にドライブに対してアクセスを行うと、完了までの時間が増えます。

以上で RAID メンテナンス機能の設定は完了です。

次のページへ続く

メモ RAID メンテナンス機能は、次の条件では実行できません。

・RAID メンテナンス中にエラーが発生した状態
・リビルド中
・既に RAID メンテナンス機能が実行されているとき

RAID メンテナンス機能の実行スケジュール

RAID メンテナンス機能の実行スケジュールは、次の設定をすることができます。

・毎週 (日、月、火、水、木、金、土から曜日指定できます。)
・第 (1、2、3、4) (日、月、火、水、木、金、土から曜日指定できます。)
・第 1、3 (日、月、火、水、木、金、土から曜日指定できます。)
・第 2、4 (日、月、火、水、木、金、土から曜日指定できます。)
・毎月 1 日

実行される時間は、0 〜 23 時の間で、1 時間単位で指定できます。
オプション設定画面で [更新] をクリックしたときに、現在時刻をもとに次の実行日時を計算し、30 分後以降であればそのまま設定し、30 分以内であればさらに次の実行日時を計算し設定します。

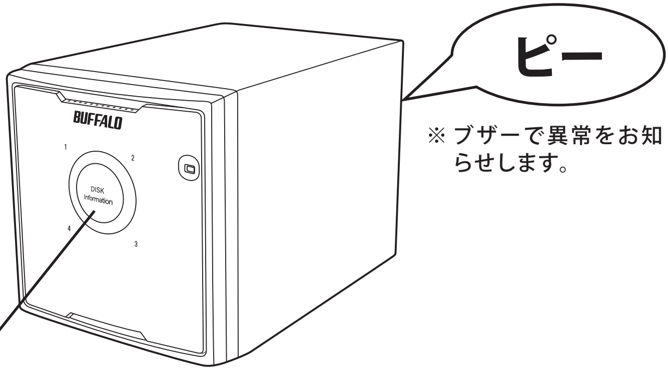
例 :「毎週日曜日」「午前 0 時」の設定を、土曜日の 23 時 30 分以前に設定した場合、30 分後に RAID メンテナンス機能が有効化されます。土曜日の 23 時 31 分以降であれば、次の週に設定されます。

本製品やハードディスクの詳細情報を確認するには

RAID 管理ユーティリティーのメニューから、[ファイル]-[情報] をクリックすると、本製品の詳細情報 (ディスクの個数、デバイスの状態、ファンの状態など) を確認することができます。
またオプション設定画面の [拡張モードにする] をクリックした状態で、RAID 管理ユーティリティーのメニューから、[ファイル]-[情報] をクリックすると、ハードディスク個体の詳細情報を確認することができます。

故障かなと思ったら（ブザー・ランプの確認）

本製品には、異常が発生した場合にブザーやアクセスランプで状態を表示する機能があります。故障かなと思ったときは、ブザーやアクセスランプの確認をしてください。



※ ブザーで異常をお知らせします。

アクセスランプ
本製品に内蔵されたハードディスクの状態を表示します。ランプに記載の数字がディスクの番号を示しています。

アクセスランプの状態	ブザー音	本製品の状態
ー	ピー・ピー・ピー（繰り返し鳴る）	背面のファンが停止しています。本製品の電源を OFF にして、ファンにほこりがたまっていないか確認してください。ほこりを取り除いても解決しない場合は、ファンが故障している可能性があります。弊社サポートセンターへご連絡ください。
ー	ピーーー（連続して鳴り続ける）	ハードディスクが非常に高温となっています。背面のファンが回転しているか確認してください。 ファンが回転していない場合は、本製品の電源を OFF にして、ファンにほこりがたまっていないか確認してください。ほこりを取り除いてもファンが回転しない場合は、ファンが故障している可能性があります。弊社サポートセンターへご連絡ください。 ファンが回転している場合は、ハードディスクが故障している可能性があります。アクセスランプを確認し、ハードディスクの状態を確認してください。なお、どのアクセスランプも赤色点灯していない場合でも、ハードディスクが高温となっています。本製品の電源を OFF にして、1 時間以上待ってからお使いください。

次のページへ続く

アクセスランプのいずれかが赤色点灯	ピー（約 3 秒鳴って停止）	ハードディスクに異常があります。アクセスランプが点灯しているハードディスクを交換してください。交換しても解決しない場合は、ハードディスクが正しく接続されているか確認してください。
アクセスランプのいずれか（複数の場合もあります）が赤色点滅	ー（ピッピッピッ）	リビルド（データ修復）中です。RAID5 モードや RAID10 モードでハードディスクを交換した場合にこの状態となります。**アクセスランプが緑色点灯するまで（リビルドが完了するまで）電源を OFF にしないでください（リビルド完了時に、「ピッピッピッ」とブザーが鳴ります）**。本製品内部でデータの移動を行っています。電源を OFF にすると、本製品が故障したり、データが破損・消失する恐れがあります。 リビルド中でもパソコンに接続して使用できますが、データ転送速度が遅くなります。 リビルド時間は、RAID5 モードの場合で 100GB あたり約 19 分（HD-QL4TSU2/R5 の場合、約 190 分）RAID10 モードの場合で 100GB あたり約 19 分（HD-QL4TSU2/R5 の場合、約 380 分）かかります。
全てのアクセスランプが赤色点灯	ピー（約 3 秒鳴って停止）	本製品を認識できません。本製品を USB で接続し、RAID を構築してください (P19)。
アクセスランプが複数、または、いずれかが消灯	ー	ハードディスクが正しく接続されていません。ハードディスクを正しく接続しなおしてください。

※ アクセスランプは、ディスクアクセスに対応して緑色点滅します。RAID メンテナンス機能実行中は、電源ランプが橙色に点灯します。

ハードディスクの交換

本製品前面の DISK1 ～ 4 のアクセスランプが赤色に点灯していた場合、点灯している DISK 番号のハードディスクドライブが故障しています。このようなとき、別途同容量のハードディスクを用意し、故障したハードディスクと交換することができます。

■ RAID10/RAID5 モードでお使いのとき

故障したハードディスクのアクセスランプが赤色点灯していますので、本製品の電源を OFF にし、AC アダプターを取り外し、ハードディスクを交換してください。

■ RAID0/ スパニング / 通常モードでお使いのとき

RAID0 モード、スパニングモード、通常モードで故障した時は、RAID アレイ内のデータ、ハードディスク内のデータを失います。ハードディスクを交換してもデータを修復することはできません。

RAID 管理ユーティリティーで故障したディスク番号の [状態] に「エラー発生」の文字が表示されます。本製品の電源を OFF にし、故障したハードディスクを交換してください。

交換するときの注意

- 本製品は精密な機器です。落としたり衝撃を与えないよう慎重に作業を行なってください。
- 本製品は約 5.5kg の重量があります。落としてけがすることがないよう慎重に作業を行なってください。
- 本製品本体の前面には、フロントパネルがマグネットで取り付けられています。前面を持って持ち上げると外れて本体が落下する恐れがあります。持ち上げるときは、必ず本製品本体の側面を持って取り出してください。
- 本製品内部の金属部分で手をけがしないよう慎重に作業を行なってください。
- ハードディスクを交換する場合は、本書で指示されていない部分は絶対に分解しないでください。本製品の分解によって生じた故障や破損は、弊社の保証対象外となりますので、あらかじめご了承ください。
- 静電気による破損を防ぐため、身近な金属 (ドアノブやアルミサッシなど) に手を触れて、身体の静電気を取り除いてください。
- 製品内の 4 台全てのハードディスクを同時交換した場合は、動作いたしません。
- 同容量の交換専用ハードディスク以外の動作は保証できません。

交換手順

以下の説明は取り外す場合の手順です。ハードディスクの交換後、元どおりに組み立てる場合は、取り外したときの逆の手順で行なってください。

1 **故障したハードディスクの番号のアクセスランプが赤色に点灯しています。アクセスランプの番号をメモしておきます。この番号が交換するハードディスクの番号となります。**

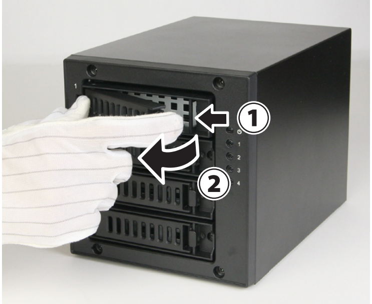
2 **パソコンの電源を OFF にして、本製品をパソコンから取り外します。**

3 **本製品の電源を OFF にし、AC アダプター、USB ケーブル（または、eSATA ケーブル）を取り外します。**

4 **マグネットで固定されている前面カバーを手前へ取り外します。**



5 **アクセスランプが赤色に点灯していた番号のハードディスクカートリッジのつまみを左方向に押しながら手前へ引きます。**



⚠注意 **取り付ける場合は、カチンと音がするまでつまみを押さえます。**

次のページへ続く

4 メンテナンス

6 **取り外した逆の手順で別売のカートリッジ付ハードディスク OP-HD シリーズを取り付け、元どおりに組み立てます。**

※ 取り付け時に注意すべきポイントがある場合は、各手順の中で説明してありますので、必ずご参照ください。

7 **ケーブル類をすべて元の状態に接続し、本製品の電源を ON にします。**

8 **本製品をパソコンに接続します。**

RAID5 や RAID10 の場合は、アクセスランプが赤色に点滅し、リビルドが始まります。

以上でハードディスクの交換は完了です。

5 付属ソフトウェア (Windowsのみ)

付属のソフトウェアの概要とお問合せ先をご案内します。

付属ソフトウェアの概要

Windows Server 2008 R2/Server 2008/Server 2003 R2/Server 2003 や、Mac OS をお使いの場合は、RAID 管理ユーティリティーのみご使用いただけます。

RAID 管理ユーティリティー

本製品の RAID 設定を行うソフトです。本製品に内蔵された 4 台のハードディスクを 1 台のハードディスクとして使用することができるようになります。本ソフトで設定できる RAID は「RAID5」、「RAID10」、「RAID0」、「スパニング」と「通常モード（ハードディスク 4 台を個別に使う）」です。

● できること
本製品の RAID モードを変更できます。

● 使いかた
「RAID の構築 (USB 接続のみ)」(P13) を参照してください。

TurboPC

TurboPC は、書き込みキャッシュを使用し、転送速度を高速化します。

● できること
本製品とパソコンの転送速度を高速化できます。

● 使いかた
TurboPC のマニュアルを参照してください。TurboPC のマニュアルは、本製品に収録されています。マニュアル「はじめにお読みください」の「画面で見るマニュアルについて」の手順で表示させてください。

TurboCopy

TurboCopy は、コピー / 移動するファイルをひとまとめに転送して効率化します。

● できること
パソコン内でファイルをコピー / 移動する時間を短縮（高速化）します。

● 使いかた
TurboCopy のマニュアルを参照してください。TurboCopy のマニュアルは、本製品に収録されています。マニュアル「はじめにお読みください」の「画面で見るマニュアルについて」の手順で表示させてください。

Backup Utility

Backup Utility は、バックアップソフトウェアです。バックアップするドライブを指定しておくことで、一定間隔または指定時刻に自動でバックアップを行えます。

● **使いかた**

Backup Utility のマニュアルを参照してください。Backup Utility のマニュアルは、本製品に収録されています。マニュアル「はじめにお読みください」の「画面で見るマニュアルについて」の手順で表示させてください。

● **お問合せ先**

株式会社バッファローサポートセンター（マニュアル「はじめにお読みください」に記載）へお問合せください。

RAMDISK ユーティリティ

パソコンに搭載されているメモリーの領域を仮想ハードディスク「RAMDISK」として使用するソフトウェアです。RAMDISK は、コンピュータ（マイコンピュータ）にハードディスクとして認識され、データの読み書きを行うことができます。
ハードディスクよりも高速なメモリーの特性を活かし、データの読み書きが快適に行えます。

● **使いかた**

RAMDISK ユーティリティのマニュアルを参照してください。RAMDISK ユーティリティのマニュアルは、本製品に収録されています。マニュアル「はじめにお読みください」の「画面で見るマニュアルについて」の手順で表示させてください。

● **お問合せ先**

株式会社バッファローサポートセンター（マニュアル「はじめにお読みください」に記載）へお問合せください。

Buffalo Tools ランチャー

Buffalo Tools ランチャーは、簡単にソフトウェアを起動させるためのランチャーです。Buffalo Tools ランチャーにあるアイコンをクリックするだけでソフトウェアやファイルを起動することができます。

● **使いかた**

Buffalo Tools ランチャーのマニュアルを参照してください。Buffalo Tools ランチャーのマニュアルは、本製品に収録されています。マニュアル「はじめにお読みください」の「画面で見るマニュアルについて」の手順で表示させてください。

● **お問合せ先**

株式会社バッファローサポートセンター（マニュアル「はじめにお読みください」に記載）へお問合せください。

eco マネージャー for HD

eco マネージャー for HD は、本製品を休止状態（※）にして消費電力を抑えることができるソフトウェアです。このソフトウェアを使用すれば、アクセスしないハードディスクの消費電力を抑えることができます。

※ 本書中の「休止状態」とは、このソフトウェアを使用してハードディスクの回転を停止した状態（スピンダウン状態）を指します。パソコン（Windows）の休止状態や、スタンバイ・ハイバネーション等の省電力状態とは異なります。休止状態では、パワー・アクセスランプは消灯しますが、コンピュータ (マイコンピュータ) にある本製品のアイコンは表示されたままです。

● 使いかた

eco マネージャー for HD のマニュアルを参照してください。eco マネージャー for HD のマニュアルは、本製品に収録されています。マニュアル「はじめにお読みください」の「画面で見るマニュアルについて」の手順で表示させてください。

● お問合せ先

株式会社バッファローサポートセンター（マニュアル「はじめにお読みください」に記載）へお問合せください。

SecureLock +Guard

SecureLock +Guard は、AES 暗号化ソフトウェアです。本製品に暗号化ボックス（暗号化されたデータを収納するファイル）を作成し、その中にデータを入れることで暗号化できます。暗号化ボックスの容量以外は自由にファイルの読み書きできるため、本製品 1 台で暗号化したデータと自由に読み書きできるデータを区別して保存することができます。データの読み出しには、パスワードが必要になるため、万一、紛失や盗難にあった場合でも外部へのデータ流出を防ぐことができます。
また、不正アクセスや誤操作から暗号化したデータを保護する機能もついているため、安心してお使いいただけます（※）。

※ Windows XP をお使いの場合、不正アクセスや誤操作から暗号化したデータを保護する機能には、「Windows XP Service Pack 2 以降」が必要です。Windows Update（http://windowsupdate.microsoft.com/）からインストールしてください。

● 使いかた

SecureLock +Guard のマニュアルを参照してください。SecureLock +Guard のマニュアルは、本製品に収録されています。マニュアル「はじめにお読みください」の「画面で見るマニュアルについて」の手順で表示させてください。

● お問合せ先

株式会社バッファローサポートセンター（マニュアル「はじめにお読みください」に記載）へお問合せください。

Acronis True Image HD

Acronis True Image HD は、バックアップを作成するソフトウェアです。Windows を起動したままバックアップを作成できます。データのバックアップだけでなく、OS のインストールされた領域のバックアップも可能です。システムの入った領域を他の領域にバックアップしておけば、システムの入った領域に何かあった場合、復旧が容易に行えます。

● 主な機能

- バックアップ（イメージ）の作成と復元
- バックアップ（イメージ）の管理
- 設定やディレクトリー構成などを変えることなく本製品や他のハードディスクへのデータ転送
- 転送時のパーティションサイズの変更やパーティションの位置の移動
- パーティションの作成
- 起動用ディスクまたは USB メモリーなどのデータストレージデバイスの作成
- ハードディスク全体のデータ完全消去
- パーティションのデータ完全消去
- 本製品全体のデータ完全消去

● 使いかた

Acronis True Image HD のマニュアルを参照してください。Acronis True Image HD のマニュアルは、付属のユーティリティー CD に収録されています。マニュアル「はじめにお読みください」の「画面で見るマニュアルについて」の手順で表示させてください。

⚠注意 **Acronis True Image HD をインストールするには、インターネットからプロダクトインストールキーを取得する必要があります。画面で見るマニュアル「Acronis True Image HD のご利用について」を参照して取得してください。**

「Acronis True Image HD」の操作方法や製品情報は、下記窓口までお問い合わせください。

※株式会社バッファローでは、「Acronis True Image HD」に関するお問い合わせは受け付けておりません。あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先　アクロニス・ジャパン株式会社

【サポート情報】

インターネット	：https://www.runexy.co.jp/support/acronis_support.html
TEL	：0120-958-507（無料）
受付時間	：9:00 ～ 17:30（土、日、祝祭日を除く）

※ 一部の電話でご利用になれない場合がございます。その場合には、03-4520-9786（有料）をご利用ください。

※ サポートセンターのご利用にはユーザー登録が必要になります。

※ アクロニス・ジャパン社のソフトウェアと製品本体（株式会社バッファロー）のユーザー登録は別々に行う必要があります。バッファローのユーザー登録も忘れずに行ってください。

ウイルスバスター (体験版)

ウイルスに加えて新種のネットワークウイルスの検出や駆除、ハッカーからの攻撃を遮断する不正侵入検知機能などを備えたウイルス対策ソフトウェアです。体験版のため 90 日間のご利用となります。

● **使いかた**

ウイルスバスターのガイドブックを参照してください。ガイドブックは、ウイルスバスターのインストール時に起動するウィンドウから [ガイドブックを見る] をクリックすると表示されます。

ウイルスバスターのマニュアルを必ずお読みください

ウイルスバスターのマニュアルには、ウイルスバスターを使用するための注意事項やインストール方法が記載されています。ウイルスバスターを使用する前に必ずお読みください。

「ウイルスバスター」の操作方法や製品情報は、下記窓口までお問い合わせください。

※ 株式会社バッファローでは、「ウイルスバスター」に関するお問い合わせは受け付けておりません。あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先：トレンドマイクロ株式会社　営業代表窓口

TEL　：0570-00-8326（音声メッセージが流れますので「1 番」をご選択ください。）

営業日　：平日のみ　9:00 ～ 18:00

なお、年末年始は休日となります。予めご了承ください。

ファイナルデータ (特別復元版 試供版)

削除されたデータを検索し、市販のファイナルデータの製品版で復元できるか確認を行えます。復元するには製品版を購入する必要があります。

⚠注意 **本ソフトウェアは、復元を行うドライブ以外の場所にインストールしてください。復元を行うドライブにインストールすると、本ソフトウェアのデータが上書きされるため、復元を行えないことがあります。**

● 使いかた

ソフトウェアのインストール後、ヘルプを参照してください。ヘルプは、以下の手順で起動できます。
[スタート]-[(すべての) プログラム]-[FINALDATA＊.＊ 特別復元版 試供版]（＊.＊は数字）-[ヘルプファイル] を選択します。

「ファイナルデータ」の操作方法や製品情報は、下記株式会社 AOS テクノロジーズ株式会社までお問い合わせください。

※ 株式会社バッファローでは、「ファイナルデータ」に関するお問い合わせは受け付けておりません。あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先：AOS テクノロジーズ株式会社

〒 106-0041　東京都港区麻生台 2-3-5 NOA ビル 9F

【サポート情報】

ファイナルデータ製品版のご購入：**http://www.finaldata.jp/buffalo.html**
技術サポート　：**http://www.finaldata.jp/support/support.html**
ライブサポート：**http://www.finaldata.jp**
E メール　：**finaldata@aos.com**

付属ソフトウェアのインストール

付属ソフトウェアは、DriveNavigator（パソコンにユーティリティー CD をセットしたときに表示されるメニュー）からインストールできます。以下の手順でインストールしてください。

1 パソコンにユーティリティー CD をセットします。

Drive Navigator が起動します。Drive Navigator が起動しない場合は、ユーティリティーCD 内の「DriveNavi.exe」をダブルクリックします。
自動再生の画面は表示されたら、［DriveNavigator を実行する］を選択してください。

・Windows 7 をお使いの場合、「次のプログラムにこのコンピュータへの変更を許可しますか？」と表示されたら、[はい] をクリックしてください。

・Windows Vista をお使いの場合、「プログラムを続行するにはあなたの許可が必要です」と表示されたら、[続行] をクリックしてください。

2 [かんたんスタート] をクリックします。

3 [ソフトウェアの個別インストール] をクリックします。

4 インストールするソフトウェアを選択し、[インストール開始] をクリックします。

以降は画面の指示に従ってインストールしてください。

6 仕様

本製品の仕様を記載しています。

仕様

※ 最新の製品情報や対応機種については、カタログまたはインターネットホームページ（buffalo.jp）を参照してください。

インターフェース		USB	eSATA
準拠規格		USB Specification Rev2.0	Serial ATA Specification Revision 2.5
コネクター		USB シリーズ B コネクター× 1	eSATA コネクター× 1
最大転送速度（理論値）		480Mbps	3.0Gbps
出荷時フォーマット形式		FAT32	
外形寸法		149(W) × 154(H) × 233(D)mm（突起物含まず）	
消費電力		最大 90W	
電源		AC100V、50/60Hz	
動作環境	温度	5 ～ 35℃	
	湿度	20 ～ 80%(結露なきこと)	
対応機種		USB2.0 コネクターを標準搭載する次のパソコン ・DOS/V 機（OADG 仕様） ・Apple 製 Mac（Intel プロセッサーを搭載した Mac のみ） 弊社製 USB2.0 ボード (別売) を搭載した DOS/V 機 (OADG 仕様)	eSATA コネクターを標準搭載する次のパソコン ・DOS/V 機（OADG 仕様） ・Apple 製 Mac（Intel プロセッサーを搭載した Mac のみ） 弊社製 eSATA ボード (別売) を搭載した DOS/V 機 (OADG 仕様)
対応 OS	DOS/V 機	Windows 7 (32bit, 64bit) / Vista (32bit, 64bit) / Windows XP (32bit) / Windows Server 2008 R2 (64bit) / Server 2008 (32bit, 64bit) / Windows Server 2003 R2 (32bit) / Server 2003 (32bit)	
	Macintosh	Mac OS X 10.4 以降	
交換用ハードディスク		弊社製 OP-HD シリーズ（*）	

※通常モードでお使いの場合、eSATA で接続すると、本製品に搭載された 4 台のハードディスクうち 1 台しか認識できません（本製品を接続した eSATA ポートがポートマルチプライアに対応してしている場合は 4 台認識されます）。

(*) ハードディスクを交換する場合は、故障したハードディスクと同じまたはそれ以上の容量のハードディスクをご用意ください（例：HD-QL4TSU2/R5 の場合、OP-HD1.0T をご用意ください）。

メモ **Windows をお使いの場合、本製品のドライバーが正常にインストールされるとデバイスマネージャー（デバイスマネージャ）に以下のデバイスが追加されます。**
デバイスマネージャー（デバイスマネージャ）は、次の方法で表示できます。
［スタート］メニュー内の［コンピュータ（またはマイコンピュータ）］を右クリック→［管理］をクリック→［デバイスマネージャ］をクリック

接続方法	追加場所	追加デバイス名
USB	ディスク ドライブ	Windows 7 / Vista / Server 2008 R2 / Server 2008： BUFFALO HD-QLSU2/R5 1（*1） Windows XP / Sever 2003 R2 / Server 2003： BUFFALO HD-QLSU2/R5 1 USB Device（*1）
	USB(Universal Serial Bus) コントローラ	Windows 7 / Vista / Server 2008 R2 / Server 2008： USB 大容量記憶装置（*2） Windows XP / Sever 2003 R2 / Server 2003： USB 大容量記憶装置デバイス（*2）
eSATA	ディスク ドライブ	BUFFALO HD-QLSU2/R5 SCSI Disk Device（*3）

*1 通常モードでお使いの場合は、「BUFFALO HD-QLSU2/R5」に続いて 4 つの数字が追加されます。
*2 TurboPC 機能を有効にしているときは、デバイス名に「(TurboPC)」が追加されます。
*3 パソコンの eSATA ポートに接続している場合は、「BUFFALO HD-QLSU2/R5」と表示されることがあります。

HD-QLSU2/R5 シリーズ ユーザーズマニュアル
2010 年 7 月 8 日 初版発行
発行　　株式会社バッファロー